

心肺蘇生法を学習して

射水市立小杉南中学校 2 学年 H26. 7. 10 実施



射水市医師会の医師や看護師、射水消防署の救急救命士や女性消防団員の方々に講師を迎え、心肺蘇生法実技講習会を行いました。命の大切さや救急車が来るまでの応急手当の手順を、実習人形やAEDトレーナーを使って学びました。実施後の感想を紹介します。

心肺蘇生法やAEDは、人の命を助けることができるものだという事を知り、怖がらずに進んでできるように、一生懸命に実習しました。家族や友達が倒れたら、助けられるようにしたいです。 (1組)

なかなかできない体験することができて、よかったです。思ったよりも難しくて、1回目はうまくできなかったけど、2回目はうまくできたのでよかったです。心肺蘇生法の大切さがよく分かりました。 (1組)

人が倒れてから1分毎に、どんどん助かる確率が少なくなっていくこと、心肺蘇生法はとても大切なことが分かりました。実際やってみるととても大変で、しっかり出来ませんでした。もしもの時は焦らずに出来るか心配ですが、助けられるようにがんばりたいです。 (1組)



心臓が止まって脳の酸素がなくなる前に、その場にいた人が、心肺蘇生法を実行しないと助からないこと分かりました。ほんの3~4分でその人の命が助かるか助からないかが決まると思いました。AEDの使い方を今日学べて、いざという時は助けられると思いました。

救急車が来るまで、意識が戻るまで、心臓が動くまで心肺蘇生法を続けなければ、助からないことを初めて知りました。この経験を生かして倒れている人がいたら、知らないふりをしないで、助けようと思いました。 (2組)



最初は、僕にはあまり関係がないことだと思っていました。身近に倒れた人がいたら、救急車を待つ間に心肺蘇生法をすれば、助かる可能性が増えると聞いて、命を救う大切なことだと思いました。講習で学んだことを生かしていきたいです。 (2組)

心臓マッサージは、同じテンポでするのが大変だったけど、コツをつかむとうまくすることが出来ました。人工呼吸は、肺に空気を入れるとふくれる様子が分かりました。教えてくださった先生は、丁寧にやさしく話をしてくださり分かりやすかったです。もしもの時は、少しでも手助けが出来るように頑張りたいです。 (2組)



心肺蘇生法がとても大切で、やるかやらないかでは、とても差があることにびっくりしました。詳しく教えてくださいだったので、とても分かりやすかったです。実際に倒れている人がいたら、落ち着いて行動できたらいいなと思いました。(2組)

とても分かりやすく説明してくれたので実習が出来ました。人工呼吸の時に、緊張したけど胸がふくらんで、「人工呼吸が上手だったよ」と言われてうれしかったです。難しかったけど、しっかりと学べたのでよかったです。(3組)

実習して、1分間100回のペースで圧迫するのはとても大変だと思いました。実際に倒れている人がいたら、冷静に行動しないといけないと思いました。講習会で学んだことを、忘れないでいようと思います。(3組)



胸骨圧迫では、押すときの手の位置がずれないように意識しました。人工呼吸では、空気がしっかり入るようにしました。一生に一回あるかないかだと思うけど、その時は慌てずに冷静にがんばりたいです。(4組)

自分一人では出来ないなので、周りの人の力の助けを求めることが大切だと思いました。救急車が来るまでは、心肺蘇生法を何回もしないといけないので、とても時間があると感じました。人の命を救うことが出来たらすごいです。(4組)

どんなことをしたら意識のない人を救えるのか初めて知りました。人工呼吸が特に難しく、人を助けることがどれだけ大変かを知りました。(4組)

今日、一番大切だと思ったことは、人工呼吸を恥ずかしながらやるということです。恥ずかしがっていると、動揺して冷静にできないので、やる時は自信をもって真剣にやりたいです。もし、自分の目の前にそんな人がいたら、助けられるようになりたいです。習ったことをやろうと思います。(4組)

